

0179

第四拾六號

徵兵令別冊ノ通改正ス

右奉 勅旨布告候事

明治十六年十二月二十八日

太政大臣三條實美

陸軍卿大山巖

海軍卿川村純義

徵兵令

第一章 總則

第一條 全國ノ男子年齢滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ハ總ア兵役ニ服ス可キモノトス

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ別チア現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三個年ニシテ年齡滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四個年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五個年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ年齡滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及ヒ後備兵役中ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限已ニ満ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役ス

ル者ハ本令ノ限ニ在ラス

第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル
可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 年齢二十歳ニ満タスト雖モ満十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志願
スルコトヲ得

第十一條 年齢滿十七歳以上満二十七歳以下ニシテ官立府縣立學校
小學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者
ハ願ニ因リ一個年間陸軍現役ニ服セシム

其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアル可シ但
常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立學校

小學校ノ歩兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期末タ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實査ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲ス但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十四條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ス平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集シ及ヒ兵員實査ノ爲メニ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十五條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

第三章 免除及ヒ猶豫

第十六條 兵役ヲ免除スルハ廢疾又ハ不具等ニシテ徵兵檢査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十七條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死沒又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戸主年齢滿六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戸主廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハ

六

サル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主

第十八條 左ニ掲タル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ

官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身幹未タ定尺ニ満タサル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止中ノ者

第十九條 官立府縣立學校小學校ヲ除クニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス

第二十條 左ニ掲タル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス
 復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ

第一項 官吏判任以上及ヒ戸長

第二項 教導職試補ヲ除ク

第三項 官立公立學校教員

第四項 府縣會議員

第五項 官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者
 第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ
 職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ
 第二十二條 左ニ掲タル者ハ第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルノ限

ニ在ラス

第一項 附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二項 癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル
 ニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫
 若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第三項 年齢六十歳未満ノ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生
 計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ

非スシテ戸主ヲ罷メ年齢六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼ギタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼ギタル戸主

第七項 年齢六十歳未満ノ者廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計

ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非
スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ
生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル
ニ非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼カス他
ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

第九項 戸主失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項陸海軍生徒ヲ除ク第十九條
第二十一條ニ當ル者ト雖モ第三十五條ニ示シタル徵兵各自届出期
限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第四章 徵兵區及ヒ抽籤

第二十四條 徴兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從フモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從フモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ師管每ニ一區ヲ設ク

軍管及ヒ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲グ

第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限り其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限り之ヲ徵集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ
海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス

第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限り之ヲ行フモノトス

府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體検査終リタル後兵役ニ適ス可
キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム

第二十七條 築ハ一郡區毎ニ築丁ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名ノ總代
人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

第二十八條 抽籤ノ法ハ築丁ノ數ニ應シ築札ニ兵種番號ヲ記シ築箱
ニ納レ築簿掛ノ面前ニ置キ築丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ヒ總
代人ニ之ヲ抽カシメ築簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉クル所ノ番
號ヲ高聲ニ呼ハシメ其築札ヲ受取り築簿ニ氏名番號ヲ記シ築札ハ
總代人ニ交付ス

第二十九條 築ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤トシ
其餘ヲ以テ補充籤トス

第五章 補充員及ヒ豫備徵員

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツ其期限内現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

補充員ノ數ハ概ネ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十七歲迄之ヲ第一豫備徵員トス

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及ヒ第一豫備徵員ヲ終リタル者年齡滿三十二歲迄ハ之ヲ第二豫備徵員トス但

第十七條ニ當ル者第二豫備徵員ト爲リタル後六個年間ニ該條ニ掲
クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

第三十三條 豫備徵員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之
ヲ徵集ス但第二豫備徵員ヲ徵集スルハ後備兵ヲ召集スルトキニ限
ル

第六章 雜則

第三十四條 每年一月ヨリ十二月迄三年齡滿十七歲ト爲ル者ハ其年
ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主本人戸主ナルモノ皆同シノレハ自身以下ヨリ
本人ノ氏名族籍住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ本籍ノ戸長ニ
届出可シ

第三十五條 每年一月ヨリ十二月迄三年齡滿二十歲ト爲ル者ハ其年

ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ
届出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其
事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十歳未満ニシ
テ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二
十一條ニ當ル者其事故止ミ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シ
タルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸
主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但九月十六日以後翌年四月十日以前
本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徵集ニ應セント欲ス
ルトキハ其地ニ居住スル者戸主ヲ以テ證人ト爲シ八月十五日迄ニ戸

主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但第三十五條ノ届書ハ寄留地ノ戸長ニ差出ス可シ

第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ服食等ヲ給ス

第三十九條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ

第四十條 第三十九條ニ掲クル者其年九月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ検査ヲ遂ケ他ノ徵員ニ先チ徵集ス可シ但戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徵集ノ期ヲ待タス徵集ス

第四十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐

偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ故ナク検
査所ニ參會セス又ハ第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ
抽籤ノ法ヲ用ヒ斯直ニ現役ニ徵集シ又ハ翌年検査ヲ遂ケ第四十條
ニ掲タル者ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒ斯徵集ス

第四十二條 常備現役年期ノ計算ハ總テ其入營年ノ四月二十日第十一
條ニ掲タル者ノ當日ヨリ起算シ豫備役及ヒ後備役年期ノ計算ハ其定例編

ハ入營ノ當日ヨリ起算シ豫備役及ヒ後備役年期ノ計算ハ其定例編
入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監
視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數
ハ服役年期ニ算入セス

第四十三條 第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ
爲サ、ル者及ヒ検査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會

セサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十五條 本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

軍管		師管		國		名	
第	第	第	第	第	第	第	第
七	六	五	四	三	二	一	第
第	第	第	第	第	第	第	第
二十	十一	十	九	八	七	三	二
第	第	第	第	第	第	第	第
第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八
千島	渡島	肥後	安藝	攝津	尾張	陸前	武藏
島	後志	日向	備後	ノ内	ノ内	ノ内	ノ内
	石狩	大隅	備中	東區	海東郡	仙臺區	内
	天鹽	薩摩	出雲	西區	海西郡	柴田郡	麴町區
	北見	沖繩	石見	西成郡	知多郡	宮城郡	牛込區
	膽振		隱岐	島上郡	美濃郡	加美郡	神田區
	日高		周防	島下郡	加賀郡	志田郡	本鄉區
	十勝		長門	豐島郡	信濃郡	玉造郡	京橋區
	釧路			有馬郡	駿河郡	志賀郡	芝區
	根室			伊豆郡	遠江郡	牡鹿郡	麻布區
屬ヒシム	ル迄函館管下函館江差福山三個所ヲ限リ之ヲ行セ	軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス	徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハス北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺ヲ設ク	新坐郡入間郡高麗郡比企郡横見郡秩父郡兒玉郡那珂郡賀美郡大里郡	北足立郡東多摩郡西多摩郡南多摩郡北多摩郡久良岐郡橘樹郡都筑郡	北足立郡東多摩郡西多摩郡南多摩郡北多摩郡久良岐郡橘樹郡都筑郡	北足立郡東多摩郡西多摩郡南多摩郡北多摩郡久良岐郡橘樹郡都筑郡